

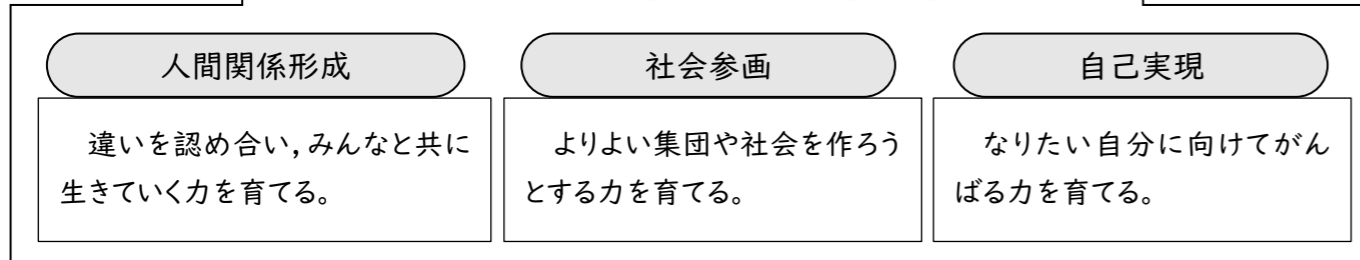
研究主題 安心できる学級・学校づくり ～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

議題 「5年生の絆パワーアップ大作戦!学年お楽しみ会を開こう」 (1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点



2. 第5学年及び第6学年における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、何事にも意欲的に活動することができ、学習や行事、係活動、委員会活動などに進んで取り組む姿が見られる。さらに、男女の仲も良く、みんなで意見を出し合いながら協力して活動する場面が多く見られる。しかし、児童同士が関わる中で、相手の気持ちを考えずに、つい自分中心の言動をしてしまう児童もおり、友達との関わり方に課題がある児童もいる。授業においては、自分の考えを持ち、ペアやグループ活動で表現することはできるが、全体の場で発表することが苦手な児童もいるため、学級全体での話し合いが一部の児童の意見で進んでしまうこともある。そこで、4月から「友だちを大切にすることができ、みんなが安心して過ごすことができる学級」にするために、相手の話をしっかりと聞いて受け入れるということも大切にしてきた。それを積み重ねることにより、少しずつではあるが、友だちの意見を聞いたり、友だちの考えと自分の考えを比べて考えたりすることに関心を持ち、相手の意見を聞き受け入れることができつつある。

学級活動については、計画委員を輪番制にすることで、どの子も役割を持ち、児童から出てきた議題をもとに月に1回程度、学級会を行ってきた。計画委員の活動も2周目に入り、1つ以上の役割を全員が経験してきたことで、話し合いを計画委員任せにせず、学級全体で進めていこうという姿勢が見られるようになってきた。今年度は、4月当初に1年間の見通しを立てる中で、みんなでやりたいことを一人一人が考え、「5-2やりたいことリスト」を作成した。一学期は、まず、そのリストをもとに「クラスの仲を深めるためにレクをしよう」という議題で学級会を行った。その後も、クラスに新しく加わった転校生のために歓迎会を計画するなど、クラスのみんが楽しく過ごすためにできることを考え、実行してきた。初めは、それぞれがやりたいことを実現させたいという思いもあり、「まとめる」までいかないこともあったが、回を重ねるごとに、友だちの意見を受け止めながらみんなで協働して取り組むことの良さを実感してきている。また、計画委員が事前の準備を行い、「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の話し合いの流れを意識して進めることには慣れてきて、少しずつ自分たちの力で進めようとする姿や心配なことや不安なことも安心して発表する姿が見られるようになってきた。

(2) 議題選定の理由

本議題は、「5-2やりたいことリスト」に挙げられていた、クラスを超えて学年全体でお楽しみ会をしたいという思いから選定された。6月に実施した宿泊学習では5年生全体が協力して活動することによって、絆が深まったことを実感することができた。その後も、運動会や陸上記録会を通して、互いに高め合い、協力しながら心身共に成長することができている。しかし、学校行事以外での交流は少なく、5-2では学級全体の絆を深めるためにお楽しみ会やギネスチャレンジ、キャラクター作りを行ってきたが、5年生全体が協力して絆を深める活動はほとんどできていない。休み時間の様子からも、クラスのメンバー同士で関わるが多く、決まった人とばかり遊んだり、活動したりする様子が見られる。本時の話し合いや実践をきっかけに、来年度はクラス替えがあり今のメンバー以外とも過ごすことを意識しながら、学年全体で学校全体を引っ張っていく立場になるという見通しを持ちながら、学年全体の絆を深めていきたい。

